

はくぶつかんの部屋 14

博物館事業が始まりますよ!



新年度がスタートして2ヵ月、市立博物館では今年度の事業が本格的に始まります。今年度は、企画展を8本開催します。5月に23・24年度に市民の皆さまからご提供いただいた資料を紹介する

「新収蔵品展」を皮切りに、3月までさまざまな企画展を計画しています。その一部を紹介しますと、7月に親子で「懐かしい」に出会える夏の企画展「人びとのくらし」、9月に沖縄県立図書館と共催で、宜野湾市にはない資料も見ることが出来る「資料にみる宜野湾市の戦後」を開催します。今年度の目玉としては10月末に、明治・昭和戦前期の宜野湾へ皆さまをご招待する、秋の特別展「近代沖縄と宜野湾」を開催します。

企画展以外では、6月から博物館市民講座も開講します。企画展の内容と関連付けた講座や野外巡見もあります。企画展と関連付けた講座は、展示を見て学ぶだけでなく、専門家のお話も聴けて内容に幅が広がりますよ。さらに8月には親子で参加できる自然観察会も行います。夏休み期間なのでお子様の自由研究のテーマにいかがでしょうか。児童向けの教室といえは、「わらばく体験じゅく」も始まりました。市

内在住の小学校5、6年生を対象に定員30名を募集して、年間同じメンバーで大山の田イモの植付けや収穫、宿泊学習などを行います。

今回紹介した内容は一部ですが、詳しい内容は宜野湾市のホームページから見る事ができます。市立博物館では、市民の皆さまに「先人の生活の知恵と工夫を知る市民参画の場」として活動を行いますので、ふるってご見学、ご参加くださいますよう、よろしくお願ひ致します。多くの方々のご来場、心よりお待ちしております。

— 24年度のおもな企画展・市民講座の様子 —



博物館市民講座
「ぎのわんの“お墓”を訪ねる」



地域との共同企画展
「ぎのわんの字展～大謝名編～」

【お問合せ】市立博物館 ☎870-9317

茶

ぐわーゆんたく

110



目米両国のはざままで…

「お金が無かった時代」というと、大昔のような感じがしますね。ですが、今から68年前、米軍統治下に置かれた沖縄で実際にあったことです。1945(昭和20)年4月から翌年までの約1年間のことで、一切の金銭取引を禁じられ、「無通貨時代」と呼ばれました。この間、沖縄県民は米軍からの配給や物々交換での生活を強いられました。

1946(昭和21)年4月にはB型軍票(ビエン)が発行され、通貨制度が再開されました。これを第1次通貨交換と言いつつ、持っていた旧日本円と交換されました。しかし、同年8月にはB円を回収し、新日本円が発行される第2次通貨交換が行われました。またそれも一年後の1947(昭和22)年8月にはB円が法定通貨に再指定され、二本立て通貨制(新日本円とB円)となりました。さらに1948(昭和23)年7月には第3次通貨交換として、B円への統一が行われ、以後、約10年間使用されました。そのため、実際にB円を使った経験のある方は懐かしく感じるかもしれません。もしかす



▲B円(千円券)

ると、家のどこかにひっそりと眠っているかも？

そのB円も1958(昭和33)年9月に廃止され、第4次通貨交換として米ドルが法定通貨となりました。

そして、B円発行から始まった通貨交換は、第5次をもってようやく終わることになりました。それが1972(昭和47)年5月15日の復帰にともなうドルと日本円との交換です。しかし、その前年のニクソン声明によるドル相場下落によって、県民は大きな不安を抱くことになりました。日本政府によって差額補償されたものの、実質的な経済混乱は解消されませんでした。その当時の写真からも人々の不安が伝わってくるようです。



▲普天間の通貨交換所



▲普天間郵便局内の様子

『宜野湾市史』への問合せ
文化課 市史編集係(市立博物館内)
☎870-9317